

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 36号

2013/02/18 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：前週より低いレベル。大きな変化なくごく狭いレンジでの動き。

①週最高：LDN 市場£1,432 / NY 市場\$2,172 (共に2月5日) 先週比 LDN - £36/NY + \$74
②週最低：LDN 市場£1,418 / NY 市場\$2,144 (1/30、1/28) 先週比 LDN - £11/NY - \$17
週内差額 (①-②)：LDN 市場£14 / NY 市場\$28

【2月11日(月)】両市場とも下落

両市場とも下落した。ニューヨーク市場の5月きりは55ドル(2.5%)安の**2172ドル**で終了した。対米ドルでのポンド安や、世界最大産地、西アフリカでのミッドクロップを前にした生育に有利な天候が背景。ロンドン市場の5月きりは24ポンド(1.7%)安の1423ポンドで引けた。

【2月12日(火)】両市場とも続落

両市場とも続落した。米国市場で3月と5月きりのスプレッドに注目した大商いとなり、不安定な相場となったことが背景。

ロンドン市場の5月きりは2ポンド(0.1%)安の1トン=1421ポンドで引けた。

ニューヨーク市場の5月きりは、一時上昇したものの、2ドル(0.09%)安の2170ドルで終了した。ディーラーらによると、西アフリカの良好な供給見通しなどが上値を抑えたという

【2月13日(水)】NY市場は変わらず、ロンドン市場は小幅反発

ニューヨーク市場では3月きりを5月きりに乗り換える動きが大半となる中を一時軟調に推移し、5月きりは一時7カ月半ぶりの安値を付けた。ただその後は持ち直し、終値は2170ドルと変わらず。

3月きりは14日に第1回受け渡し通知日を迎える。3月きりは手じまい売りに昨年6月以来の安値まで下落し、5月きりとのスプレッドは27ドルに拡大した。ある米国のトレーダーは、受け渡し通知日を前に、買い持ち筋の一部がパニック的に売りを出したと指摘した。対ポンドでのドルの上昇も、圧迫要因となった。ロンドン市場は小幅反発、5月きりは11ポンド高の**1432ポンド**で終了した

【2月14日（木）】両市場とも下落

両市場とも下落した。ニューヨーク市場の5月きりは14ドル（0.6%）安の2156ドルで終了。序盤に小幅上昇したものの、12日に付けた2番ぎりとしては昨年6月以来の安値2147ドルをわずかに上回る程度だった。

主要産地コートジボワールの2013～14年度の先渡し物の売却が滞るという観測が、潜在的な上値を限定した。

ロンドン市場の5月きりは、5ポンド（0.3%）安の1427ポンドで引けた。

【2月15日（金）】NY、ロンドンともに続落

ニューヨーク市場のココア先物5月きりは、12ドル（0.6%）安の**2144ドル**と続落して引けた。序盤には、2135ドルと2番ぎりとしては2012年6月以来、約7カ月半ぶりの安値まで下落した。ディーラーらによると、西アフリカのミッドクロップの生育状況は、好天にもめぐまれ順調という。

RJOフューチャーズ（シカゴ）のシニア市場アナリスト、ヘクター・ガルバン氏は「コートジボワールの天候は安定しており、ミッドクロップも順調」と話した。ロンドン市場の5月きりも、9ポンド（0.6%）安の**1418ポンド**と続落。ただ、12日に付けた10カ月ぶり安値の1411ポンドは上回った。

2、カメルーン産カカオ豆、品質低下で価格下落、欧州で一部受け入れ拒否(2/16)

関係当局が15日明らかにしたところによると、カメルーンのカカオ主産地では、カカオ豆の農家出荷価格が最大で4%下落したほか、港での出荷価格も下落している。同国産カカオ豆は品質低下が懸念されており、欧州市場では受け入れが一部拒否された。

2月のカカオ豆価格は、中部主産地のエマナでキロ当たり800～810CFAフラン（1.65ドル）と、1月の同約875CFAフランから下落した。

南西部の他の主産地クンバでは、2月のカカオ豆がキロ当たり810～825CFAフランと、1月の約840CFAから下落した。

カメルーンのムバルガアタンガナ商業相は「水分の含有量が多く、欧州連合（EU）の品質基準を満たさなかったため、12月はおよそ2000トンのカカオ豆が受け入れを拒否された」と説明した。

カメルーンのココア・コーヒー専門家協議会（CICC）の幹部によると、欧州諸港の検査官は、カメルーン産カカオ豆から悪臭があり、多環芳香族炭化水素（PAH）の濃度が高かったため、消費には適さないと判断したという。同幹部によれば、農家が基準外の乾燥法を用いたため、カカオ豆の品質が低下し、価格が下落したと説明している。

解説）カメルーンカカオは基本的にはガーナやコートジと比べ降雨量が多い為、乾燥に大きな課題を抱えている。乾燥の時間を短縮する為には、直火をつかって乾燥を早く行うこともあり、俗にいう“スモーク臭”がされることも多いとされています。

しかしながら、カメルーンもシエラレオネ等同様にカカオ豆原料自体が悪いわけではなく、収穫後の管理体制がその土地の持つ状況に対応できていないことが問題である為、一部の会社はカメルーンにて収穫後の加工工程の改善から着手する企業も出てきています。

下記は、弊社のビジネスパートナーより送付されてきた、雨に強い乾燥場のプロジェクトを始めたカメルーンカカオの乾燥場の写真。ソーラーシステムで乾燥ルームの電力を確保するシステムです。



3、アジア市場；バターレシオ欧州市場の需要減退で2カ月ぶりの低い水準まで下落(2/15)

- ・アジア市場でのココアバターのレシオは 1.85 へ
- ・アジア市場でのココアパウダーの価格は \$ 2600/トン付近

アジア市場でのココアバターのレシオは欧州市場で今後のココアバターの供給が上昇し安定するとの見込みが出始めたことに影響を受け、昨年 11 月以来の低い水準まで下落した。しかし、これを受けて、安値を期待していたチョコレートメーカーからの引き合いが出てきているとシンガポールのディーラーは話している。

今週アジア市場でのココアバターのレシオはロンドン先物市場に対して 1.85 であった。(1 月下旬には 2009 年以降の最高値で 1.98 までに到達していた)

『レシオは、今は 1.90 より下だよ。1.85 レシオでは少しの買いが入った。欧州のココアバターの価格が弱含んだのに影響を受けてアジア市場のバターの価格も落ちている』ディーラーは言う。

『しかし、どちらかという今は売りたい企業の方が多く状況だ。大手の企業がココアバターを安値で放出したという話を聞いた』とディーラーは言い、多くのアジアの磨砕業者はレシオを下げ顧客の興味を引こうとしている。

バレンタインデーとイースター需要を前にした需要につられてバターのレシオは高騰していた。ココアバターの価格はロンドンとニューヨークの市場価格に掛けて算出するレシオによって決定される。しかし、1 月下旬の 2.1 レシオであった欧州のバターレシオが 2 月の初旬に 1.9 レシオまで下落したことで、ココアバターの供給は不足していないという推測が広がった。また欧州のディーラー達もコートジでのカカオ豆の供給量が改善してきていると見込んだ。

カーギルはコートジで磨砕業者への輸出税優遇が廃止され、輸出の際の課税が増えている状況があるが、カカオ豆磨砕工場の製造数量を減らす予定はないと表明している。カーギルは世界的なカカオ磨砕業の大手企業でコートジでも年間 120,000 トンのカカオ豆処理能力の工場を所有している。

・ココアパウダー市況

一方、ココアパウダーの市況は直近の荷渡し物で\$2,600/トンで取引されたと報告され、これは1月下旬に案内されていた\$2500-\$3000/トンの価格の範囲内での値動きである。ディーラーは今週の価格予測をもし需要が現在のまま低いレベルで継続すれば、バターもパウダーも現状の価格で継続するだろうと見込んでいる。

4、インドネシアからのカカオ豆など農産物輸出数量(2/16)

下記はインドネシア銀行が発表したインドネシアの主要な農作物の輸出実績

月	パームオイル (単位百万トン)	カカオ豆 (単位：トン)	コーヒー豆 (単位：トン)
2012 December	1.833	10,000	34,000
November	2.260	14,000	47,000
October	1.448	9,000	60,000
September	1.853	26,000	69,000
August	1.381	8,000	47,000
July	2.016	15,000	58,000
June	1.076	12,000	38,000
May	1.015	19,000	30,000
April	1.347	9,000	20,000
March	1.718	14,000	15,000
February	1.321	19,000	15,000
2012 January	1.674	16,000	15,000
TOTAL	18.942	171,000	448,000

5、コートジのカカオ着荷数量 2/10 までに 88 万 3 千トン。前年対比 4%減少 (2/11)

コートジボアールでの10月からスタートした新物のカカオの着荷数量が2月10日までで883,000トンとなり、前年同時期比で4%減少となったことが判明した。

現在の所、収穫数量は前年の2011/2012シーズンより下回っているが、昨年との不足幅は10月から3月のメインクロップが比較的安定した収穫となっていることで起因してクロップスタート時よりも縮まってきている。

輸出業者筋は、2月4日~2月10日の1週間の間にコートジの主要な2つの港に合計で29,000トンのカカオ豆の着荷があつと見積もっており、この数量は前年同期間の20,000トンを上回っている。

『通常、1月の中旬からミッドクロップの開始までは着荷数量は落ちてきて、週間の着荷数量は平均で15,000~20,000トンで推移する』アビジャンで事業を行う輸出業者は説明する。

『この収穫時期にこれだけの大きな数量の着荷数量があることに正直驚いている。これは普通ではなく、今年のメインクロップが本当の収穫量を少し疑い始めているよ』彼は言う。

コートジの政府のカカオマーケティング機関であるCCCは1月に2012/2013シーズンのカカオ生産数量は古くなったカカオ農園への修繕への投資が不十分だったことが起因し前年対比で13%減少し、128.9万トンになる予測であると発表した。また、メインクロップの収穫数量は955,000トンの予測と発表した。

アビジャンベースの輸出業者の代表は『コートジの東部からはもうほとんど収穫はなくなってきているが、他の地域、特に西部からはまだこの時期でもよい集荷数量があり、昨年よりも多くなっている』と語る。

『今後の正確な数量の予測は難しいが、今年のコートジのクロップは当初我々が考えていたよりは大きな数量になるだろう』

***今週から特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて開始致します。どうぞ、こちらもご愛読頂きますようお願い申し上げます。**

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。
《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp